

多様な顔を持つ中東経済

一般財団法人中東協力センター「中東講座」

2018年1月22日

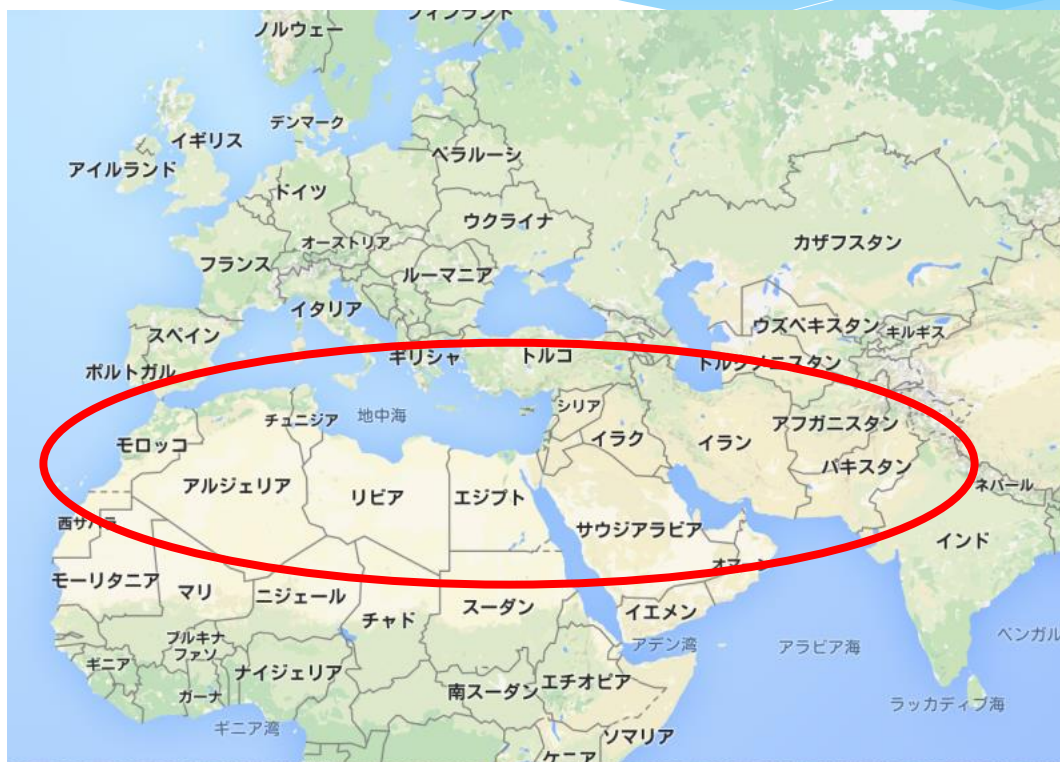
日本経済新聞社

論説委員兼編集委員

松尾博文

中東とは？

- 文明発祥の地
- エネルギー資源の集積
- 物流の要衝
- ASEANに匹敵する市場



混乱は世界の安定を脅かす

NIKKEI

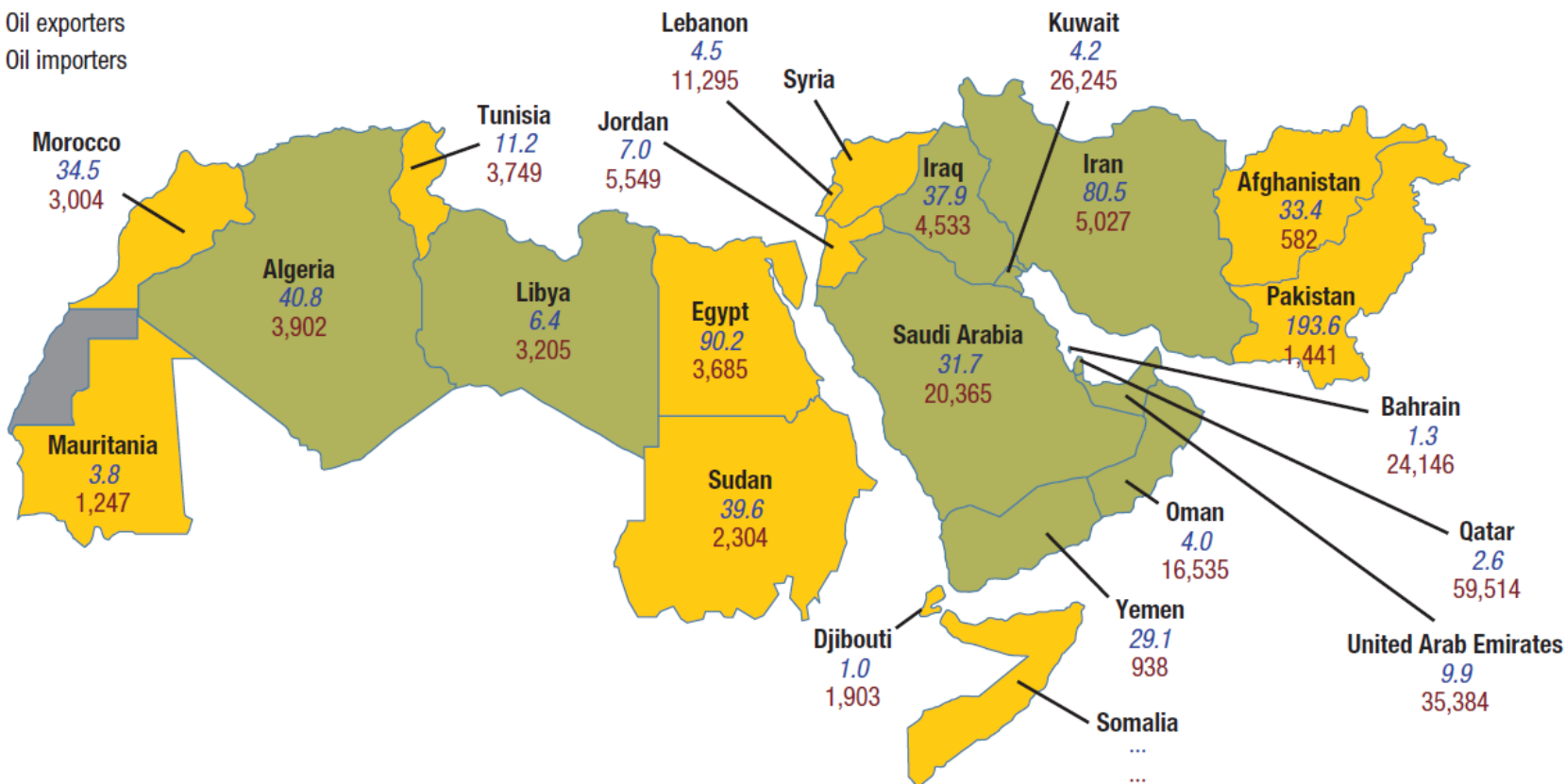
人口、経済規模も様々

- 1人あたりGDPが6万ドルに迫るカタール、1000ドル割れのイエメン
- 人口9000万人のエジプト、8000万人のトルコ、イラン
- 産油国と非産油国～持つ国と持たない国の格差

Population, millions (2016)

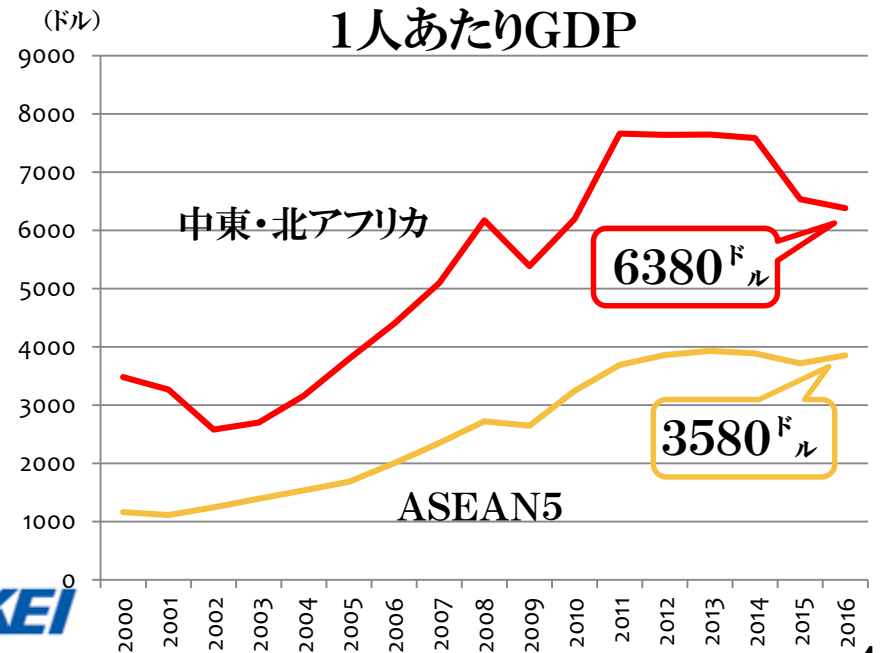
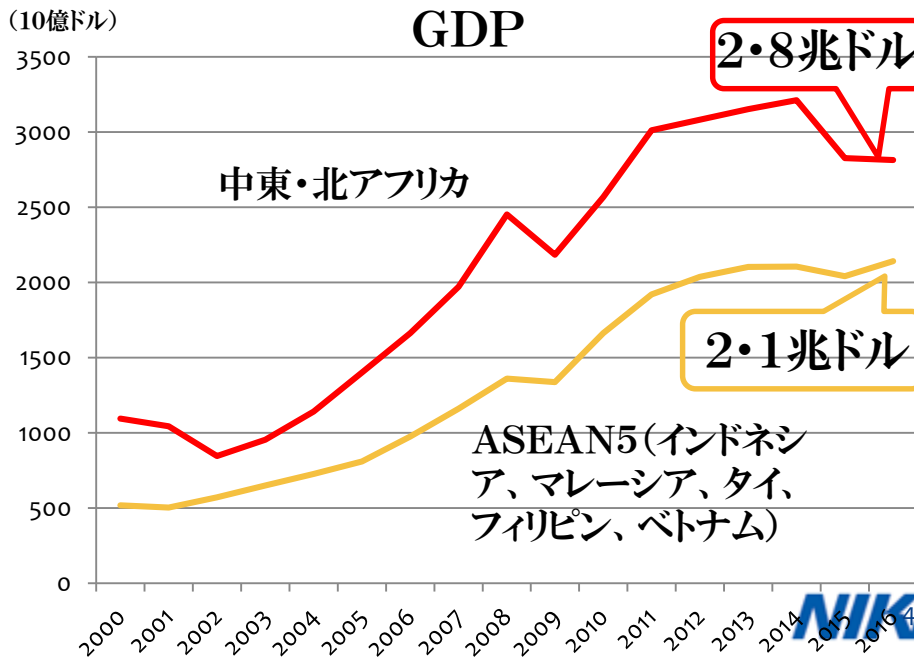
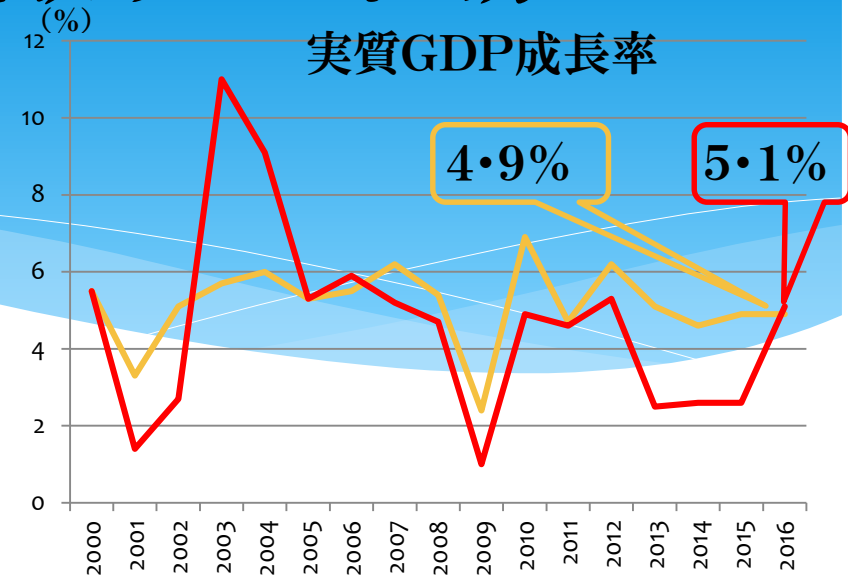
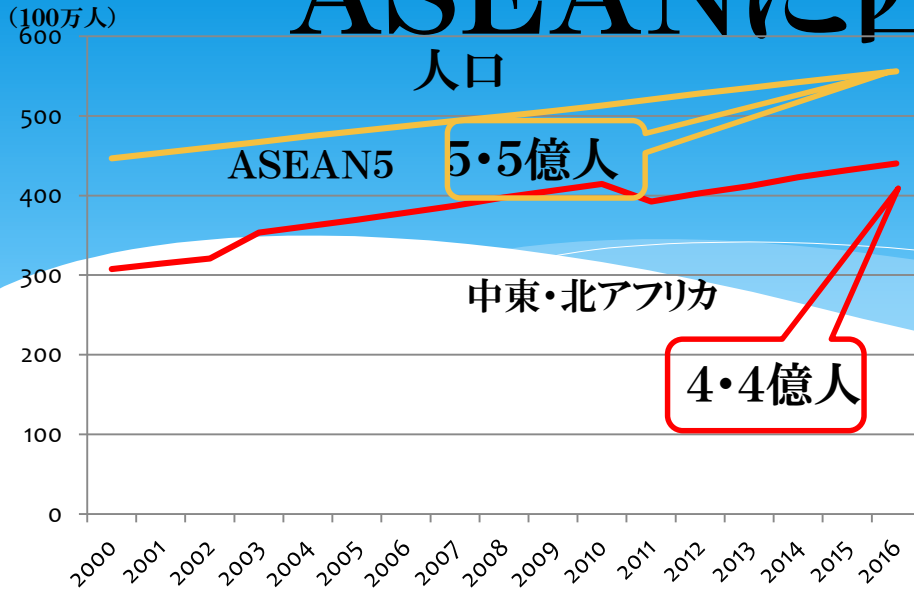
GDP per capita, US dollars (2016)

- Oil exporters
- Oil importers



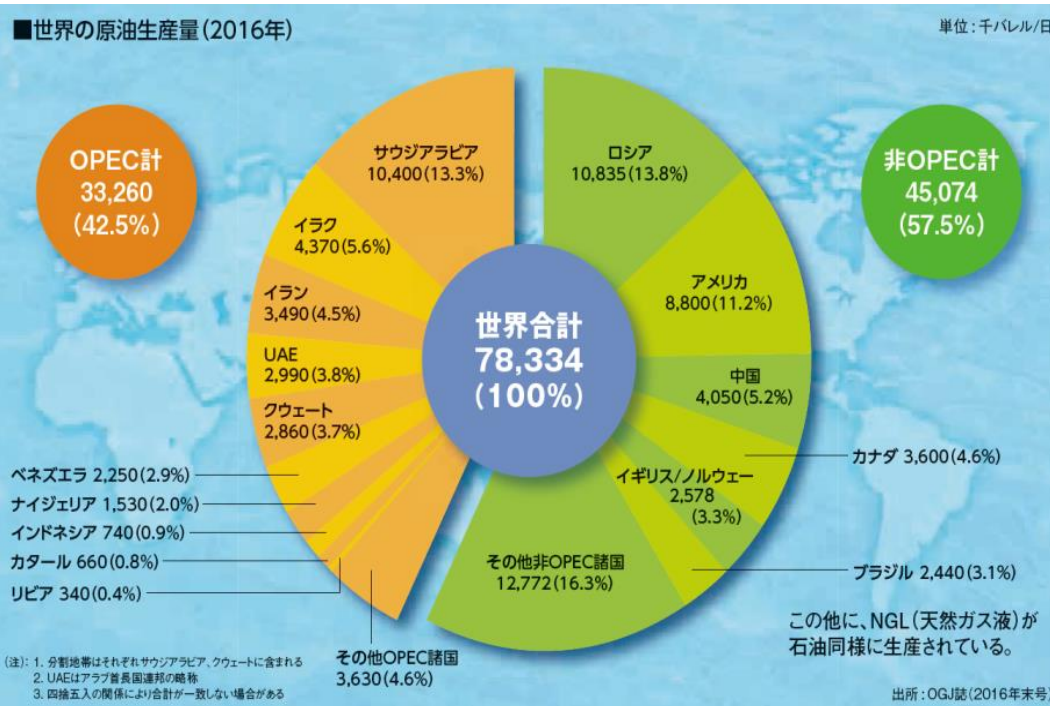
ASEANに匹敵する市場

(出所・IMF)

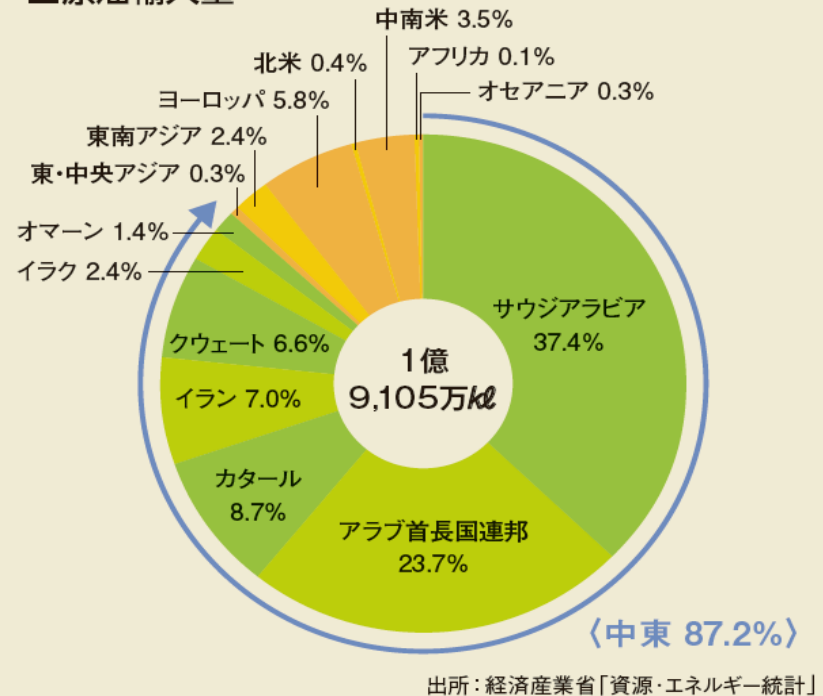


エネルギーの生命線

●日本は原油の9割、LNGの3割、自主開発原油の4割をこの地域に依存



■原油輸入量

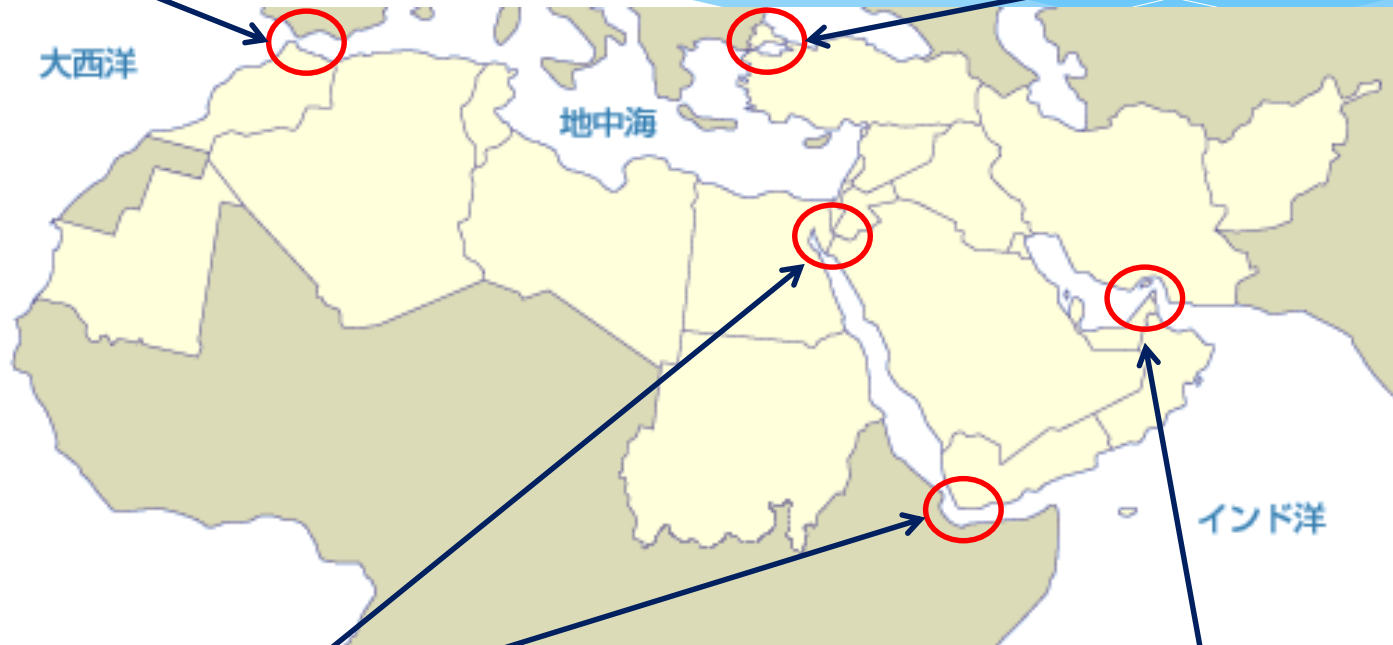


出所・石油連盟

物流の要衝

- ジブラルタル海峡
- ・地中海と大西洋を結ぶ

- ダーダネルス・ボスポラス海峡
- ・黒海と地中海を結ぶ

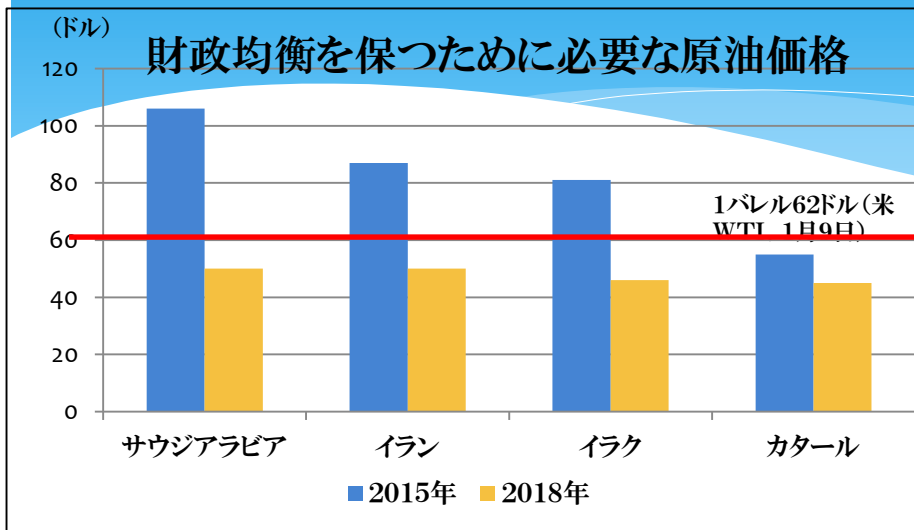


- スエズ運河・バブアルマンデブ海峡
- ・年間約2万隻、うち日本関係船舶約2000隻
- ・全貿易量に占めるEUの比率やく10%

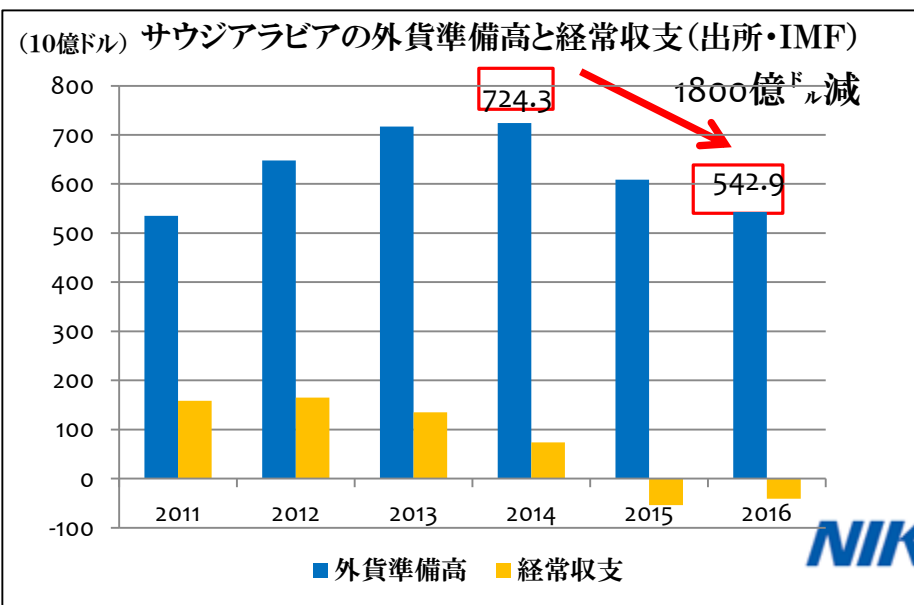
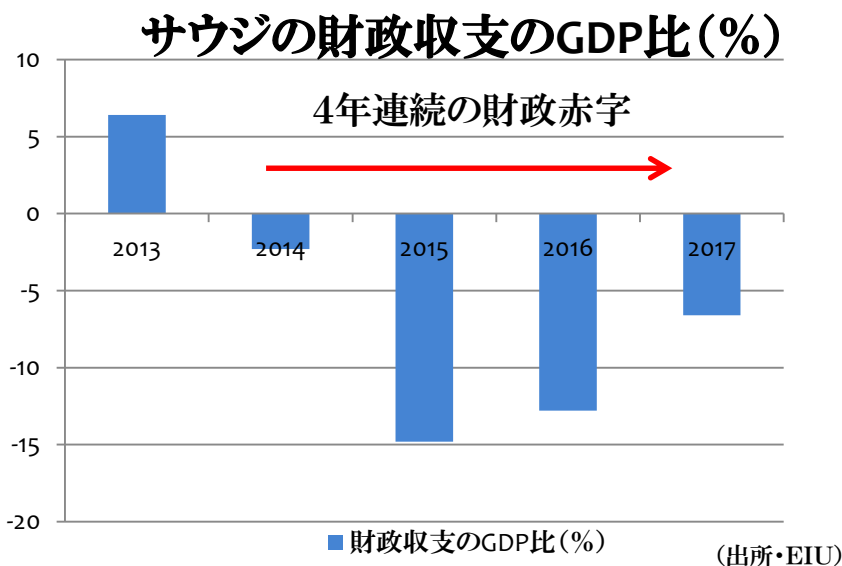
- ホルムズ海峡
- ・日量約1500万バレルの原油が通過
- ・年間約3000隻のタンカーが航行

産油国の課題(1)

原油安が圧迫する国家運営



- サウジ財政に占める原油依存率は約90%、イランは約40%
- サウジが財政を均衡させるには、15年で1バレル100ドル超。18年度予算は1バレル50ドル前提か



- 14年からの原油安でサウジは4年連続の財政赤字
- 不足分を在外資産取り崩しで対応。サウジは2年で20兆円の外貨準備減少

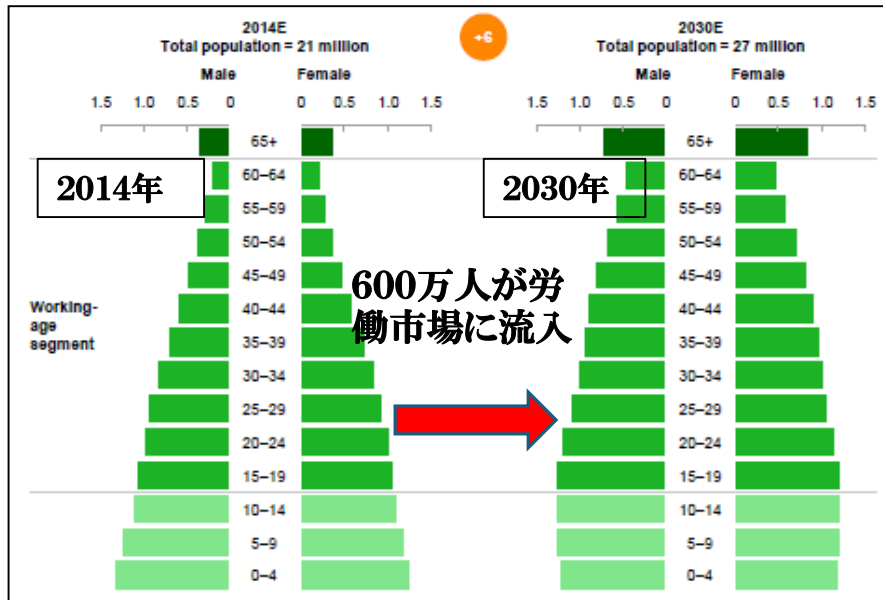
産油国の課題(2) 増大する若年層人口

	人口(万人)	失業率(%)	2030年の人口予測(万人)	実質GDP成長率(%)	1人当たり名目GDP(ドル)
サウジアラビア	3174	5.6※	3700	1.4	20150
イラン	8046	12.45	8850	6.54	4683

(出所・IMFほか、30年の人口を除き、数字は2016年)

●サウジの人口3100万人中、外国人(主に労働者)が1100万人。サウジ人2000万人のうち若年層(24歳以下)が1000万人(IMF、サウジ統計庁)と半分を占める。

●公式統計ではサウジの失業率は5・6%だが、実際は10%超。若年層に限れば3割との見方も(※)



サウジアラビアの人口動態(出所「Saudi Arabia Beyond Oil」、McKinsey&Company)

サウジ

- 増大する補助金が財政を圧迫(水、電力、燃料向け補助金は年12兆円)
- 増大する水・燃料消費(30年には石油輸出余力ゼロ、との予測も)
- 30年までに600万人が労働市場に
- 雇用の創出が急務、増大する失業者は社会不安の種に
→「国家丸抱え」の限界

イラン

- 長年の国際孤立で疲弊。革命体制安定には生活改善の実感不可欠

産油国の課題(3)

「石油の世紀」いつまで

- サウジの原油生産コストは1バレル10ドルを下回る。シェールオイルは50ドル。サウジ原油は世界で最も競争力がある。
- 国際エネルギー機関(IEA)などの見通しでは、石油の需要は2040年まで右肩上がりで増える。
- しかし、地球温暖化対策を背景とする、再生可能エネルギーや、電気自動車(EV)の普及によって、石油の消費は従来言われているより早くピークを迎えるのではないか、との見方も
- サウジ油田は競争力があるとはいえ、世界需要が減少に転じれば、原油価格は上がりにくくなる。石油頼みの国家運営はますます難しくなる。
- 埋蔵量がたくさんあっても、使い道のない「座礁資産(ストランデッド・アセット)」になることへの恐怖。
- 「石器時代は石がなくなったから終わったのではない。(青銅器や鉄器など)石に変わる技術が登場したから終わった。石油も同じだ」(第1次石油危機を主導したサウジのヤマニ元石油相)

→石油に依存しない国づくりへ

産油国の挑戦

改革のリーダーか、破滅に追い込む危険人物か



●ムハンマド・ビン・サルマン皇太子

- ・サルマン国王の7男、32歳。
- ・国防相、副首相を兼任
- ・経済開発の統括組織のトップ。国営石油会社サウジアラムコも管轄

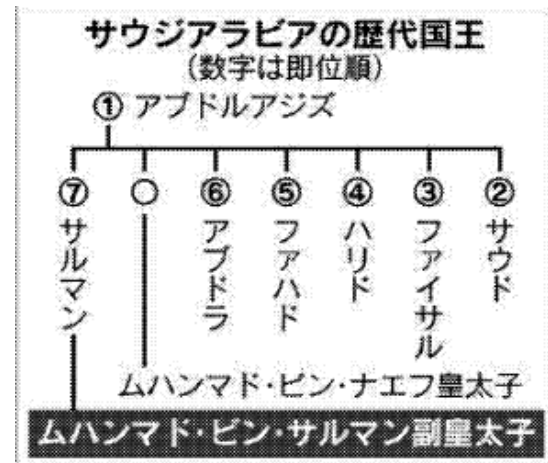
●「石油中毒から抜け出す」～経済・社会の構造改革計画「ビジョン2030」

- ・非石油産業、民間部門の育成
- 外交の強硬姿勢に危うさ
 - ・イエメン介入、増大する戦費と犠牲
- 急がれる実績
 - ・高い期待、蓄積する不満

サウジの経済改革構想「ビジョン2030」が掲げる主な目標

	現状	2030年
原油以外の政府収入	1630億 ¹ 円	1兆 ¹ 円
政府系「公共投資ファンド」の資産規模	6000億 ¹ 円	7兆 ¹ 円
失業率	11.6%	7%
民間部門の国内総生産（GDP）比	40%	65%
中小企業のGDP比	20%	35%
外国直接投資のGDP比	3.8%	5.7%
女性の労働力参加率	22%	30%

(注) 1 円 = 27.7円



(日経)

トルコの存在感(1)

中東最大の経済

●中東最大の経済、欧州連合(EU)との比較でイタリア、スペインに次ぐ6位の規模
→共和国建国100年となる2023年までに世界の上位10位以内に。

●人口はEUとの比較で、ドイツに次ぐ2位。遠からず首位に。中東ではエジプト、イランに次ぐ3位。

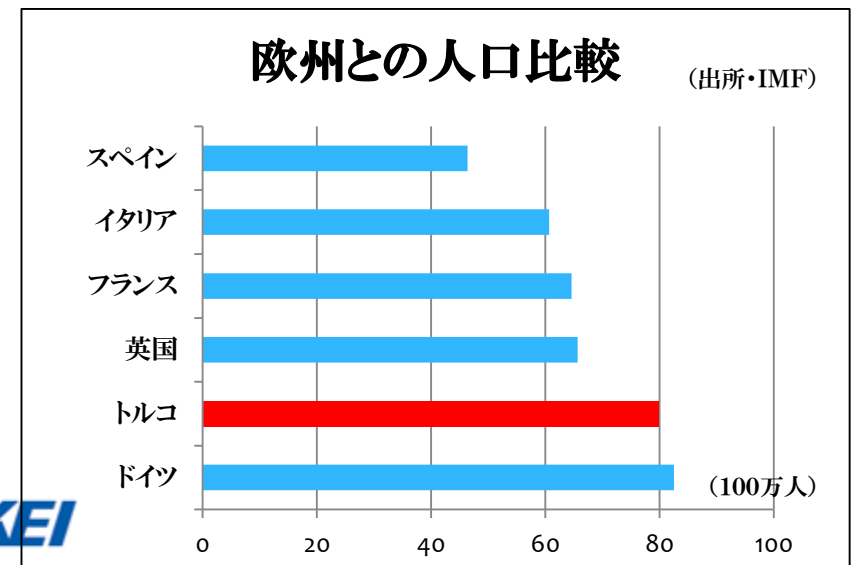
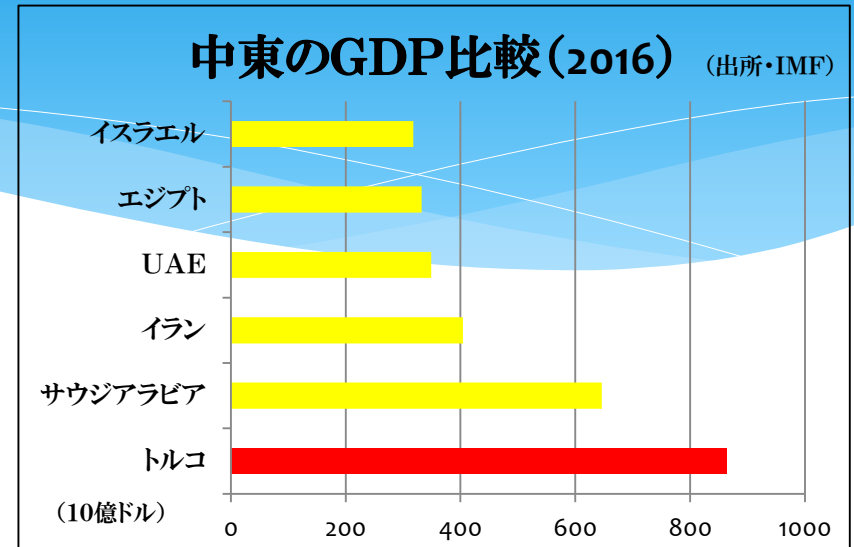
●トルコが持つ3つの顔

①中東・イスラム～イスラム教徒としての連帯感

②欧州・民主主義～政教分離とEU加盟交渉

③中央アジア・民族～民族としての同胞意識

→中東・欧州・アフリカ・中央アジアを結ぶ地理的優位

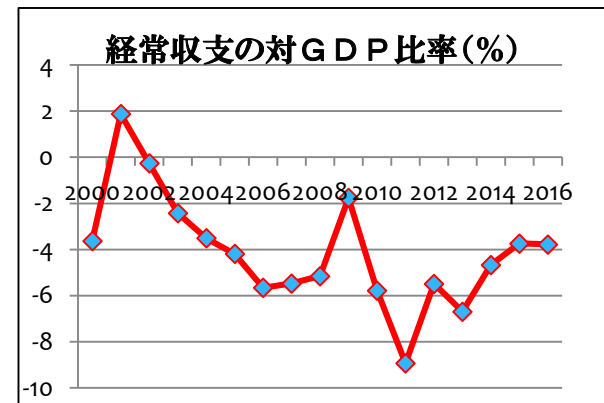
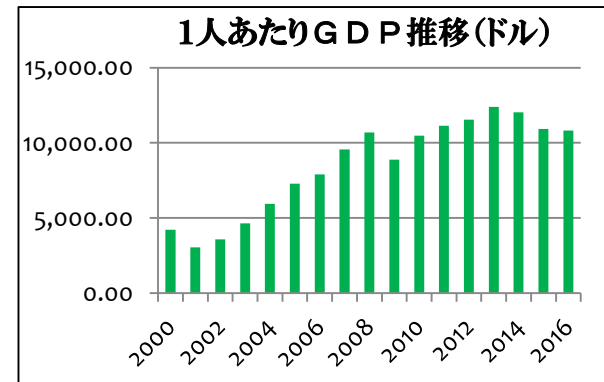
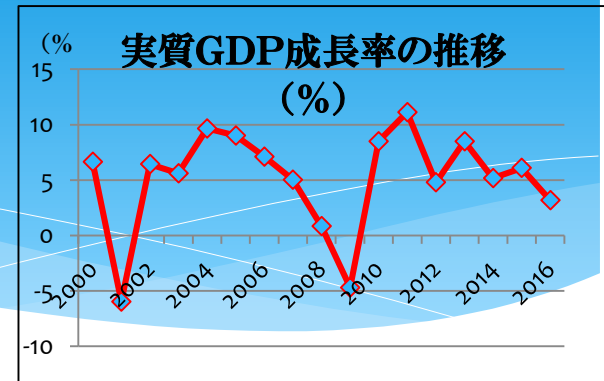


トルコの存在感(2)

経済飛躍の実像

- 2000～01年の経済・通貨危機後、08年まで年率7%を超える成長。
- リーマンショックの落ち込みから復調するも、ここ数年は鈍化傾向。
- GDPの約7割を占める個人消費＝内需が成長をけん引
- 消費の担い手となる都市、林立するショッピングセンター→地方との所得格差
- 慢性的な貿易赤字を背景とする経常赤字と、対外債務が弱点
- 通貨リラ安の進行と、インフレ抑制から景気拡大にかじを切った金融政策
 - 00年代の高成長をもたらしたAKP＝エルドアン体制の安定
 - 10年代の鈍化の背景にある治安・政治情勢

(出所・IMF)



トルコの存在感(3)

際立つ産業領域の広さ

- 国内市場+輸出拠点、多様な物作りの基盤
- 企業グループ(財閥)の影響力
- 中小企業が99%、雇用の75%を占める
- 自動車

・日米欧、10社以上が欧州向けの生産・輸出拠点に。繊維に代わる輸出の主力に

・他の中東にはない部品・関連産業の集積、全国に1300社

・生産年100万台超。車体など大型部品はトルコで調達、電子部品など高機能品は欧州から。欧州と一体化した生産体制

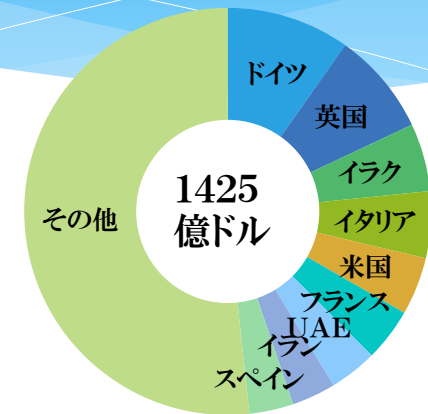
●家電

・アーチェリクとベステル~2大家電企業。独自ブランドとOEM

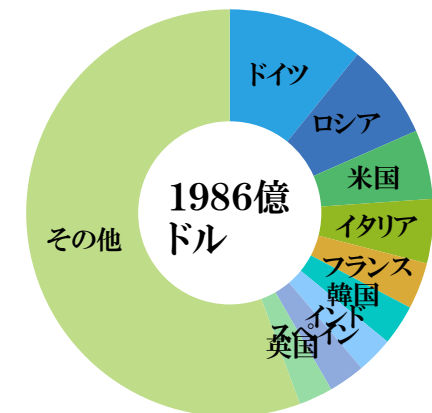
●鉄鋼、素材

- ・OECDで5位、世界で11位の粗鋼生産能力
- ・セメント世界10位の生産量

トルコの主要輸出先(2016年)



トルコの主要輸入先(2016年)



トルコはどこへ行く

世俗主義の堅持か、イスラムへの回帰か

●トルコの内憂外患

- ・シリア内戦と難民の流入(275万人)
- ・ISのテロ、PKKとの和平交渉破棄
- ・ギョレン教団との対立
→クーデター未遂事件

●「ゼロプロブレム外交」の破綻

- ・トランプ政権、サウジなどとの関係冷却化
- ・ロシアと接近

●EU加盟交渉と難民問題

- ・EUと合意～難民の流入抑制と資金支援、ビザ無し渡航と加盟交渉の加速

●憲法改正

- ・軍の影響力排除、ギョレン派一掃
- ・国民投票、僅差の勝利→大統領権限の強化と政権の長期化



(日経)



NIKKEI

中東経済の可能性と課題

- サウジ型、トルコ型のハイブリッド、**イラン**～魅力は2倍、課題も2倍？
 - 自由化に賭けた**ドバイ**～ヒト、モノ、カネのハブ
 - **イラク**、**シリア**の復興のチャンスと陰しさ
 - アフリカへの窓、**エジプト**、**モロッコ**
 - 「スタートアップ」企業が集まる**イスラエル**
-
- 中東の安定と構造変化の成否
→ 日本も無縁にあらず
 - どう手を携えていくのか
→ 問われる構想力

NIKKEI



(2016年9月1日、日経) 15



ありがとうございました。